

2018年11月12日
日本船主協会 海務部

荒川区立第三中学校「校内ハローワーク」への協力

当協会では「人材確保タスクフォース」を設置し、船員教育機関等と連携しつつ優秀な日本人船員（海技者）確保のための広報活動を展開しています。

この度、その一環として荒川区立第三中学校（東京都）の校内ハローワークに、講師として日本郵船株式会社より太田英徳船長と鈴木里佳二等航海士を派遣しました。

荒川区立第三中学校の校内ハローワークは、約30業種の社会人が講師となり、在学生代表にその職業について紹介するという取り組みです。生徒が多くの職業の魅力や苦勞、やりがいを直接聞くことで、それらの職業に対する知識を深めることを狙いとしています。当校内ハローワークは2001年度から開催され、今年で18回目を迎えました。当協会には2011年度より招請があり、今回で8回目の講師派遣となりました。

今年度は11月10日（土）に開催され、海技者の他、管理薬剤師、ネイリスト、TVディレクターなど27職種の講師が招かれ、全校生徒478名がそれぞれの講座に参加しました。

3回実施された講座には、計48名の生徒が参加しました。そして、船乗りの仕事内容、船種や船の大きさ、海運が社会に果たしている役割や重要性などについて、船内の写真や動画を交えた説明に興味深く聞いていました。

さらに、「なぜこの仕事を選んだのか」、「楽しかったこと、大変なこと」、「航海士・機関士になるために中学生の今から頑張れること」、「船酔いはするか」等といった多くの質問がありました。

人材確保タスクフォースでは、今後もこうしたキャリア教育の場などに積極的に参加し、海技者の魅力を伝え、職業の認知度向上に努めていきます。



全体会の様子



講演する太田船長(右)と鈴木二等航海士(左)